

今回発刊いたしました16巻2号は、主に総説1報、原著1報、報告1報、教育機関紹介2報で構成されております。なかでも総説“データサイエンスが支える臨床検査教育の課題と取り組み”と、原著“大規模言語モデルは臨床検査技師国家試験に合格することができるか”は、臨床検査と人工知能(AI: Artificial Intelligence)の将来性や活用法に言及しており、大変興味深い内容となっております。私の専門分野である病理・細胞診検査では、新型コロナウイルス感染症の影響もありデジタルパソロジーの必要性が高まったことで、その技術的革新は進化を遂げています。6月に開催された第65回日本臨床細胞学会春期大会では、AIの診断精度に加え *in situ* hybridization 法の染色定量化など、データ分析技術が向上したことにより、病理医の診断効率を高めている事例を拝見しました。また、2021年度より、病理専門医試験では顕微鏡は用いずバーチャルスライドを用いる試験方式が採用されています。これらの背景から、

医学部の組織標本観察実習ではバーチャルスライド化を図っている施設が増えてきております。臨床検査技師養成校においては、バーチャルスライドを主体とした形態系実習を積極的に行っている施設は少ないと思われませんが、今後、臨床現場に即した教育法の導入を思索するべきと痛感しています。

臨床検査技師の卒前教育を取り巻く環境は、タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会の開催、指定規則変更に伴う臨地実習の新カリキュラムの実施など大きく変化し、実際に稼働し始めている養成校も数多いことと思います。今後、卒前教育の変革で生じた問題点や課題が明らかになることと思いますが、本誌がその情報共有の礎となり、各養成校の教員、医療施設の臨床検査技師、そして臨床検査技師を志す学生がさらなる発展を遂げることを願っております。

(令和6年6月17日 編集委員 岡山 香里)

一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会  
日本臨床検査学教育学会 学術部  
編集委員会(令和5年・6年度、五十音順、敬称略)

副理事長(学術部)：市野直浩(藤田医科大学)

委員長：多田達史(香川県立保健医療大学)

副委員長：吉田祥子(東京工科大学)

委員：伊藤洋志(神戸常盤大学)、大津山賢一郎(山口大学)、岡山香里(群馬パース大学)、木村明佐子(国際医療福祉大学)、宿谷賢一(順天堂大学)、杉本恵子(藤田医科大学)、副島友莉恵(東京医科歯科大学)、徳原康哲(香川県立保健医療大学)、西尾美和子(東京医科歯科大学)、野坂大喜(弘前大学)、星 雅人(藤田医科大学)、本木由香里(山口大学)、米谷正太(杏林大学)

査読者(第16巻1・2号)：岡田茂治、齋藤良一、藤岡美幸、松尾英将、山口博之

## 臨床検査学教育 第16巻第2号

令和6年9月1日発行

発行人：一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会  
理事長 坂本秀生

〒143-0016 東京都大田区大森北 4-10-7  
日本臨床衛生検査技師会内  
Tel. 080-7228-0508  
e-mail : jimukyoku@nitirinkyo.jp  
http://www.nitirinkyo.jp

編集：日本臨床検査学教育学会 学術部 編集委員会  
e-mail : edit@jamte.org

制作：(株)宇宙堂八木書店  
〒104-0042 東京都中央区入船 3-3-3  
Tel. 03-3552-0931 FAX 03-3552-0770

広告取扱社：(株)日本廣業社  
〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-3-11  
Tel. 03-3238-7501